

## 普及現地情報

発信年月日：令和2年（2020年）7月14日

所属名：大津・南部農産普及課

番号：A20002

部門分類：430（地域・農村計画）

発信者名：村井、木田

### もりやまフルーツランドの10年後を見据えて

守山市北部に位置する果樹団地（通称「もりやまフルーツランド」）は、（農）さづかわ果樹生産組合および（農）こばま野洲川地区生産組合により構成され、そこで生産されるナシやブドウは、昔から消費者に高い評価を受けています。

しかし、産地設立から25年以上が経過し、生産者の高齢化、樹の老木化、作業性の悪い樹形、最新品種への更新停滞、台風被害等、様々な問題が出てきました。また、もりやまフルーツランドをとりまく情勢が変化中、農地中間管理機構や果樹関連の事業にも、十分に対応できていません。

こうした中、「10年後を見据えた果樹産地の将来像を描き、その実現に向けた計画を策定しよう。」と産地および関係機関に働きかけました。その結果、計画を話し合う場として、守山市を事務局とした「もりやまフルーツランド協議会」が令和2年3月に発足し、7月7日に初会議が開催されました。

会議では、会長、副会長が選任され、現在フルーツランドで顕著化してきた課題の共有化が図られるとともに、今後の計画策定に向けたスケジュールが協議されました。産地とはこれまでから議論を重ね、特にナシでは下表のとおり新たな戦略案を作成済みです。

当課では、関係機関と連携を図りつつ、生産者の想いを具体化した計画の策定支援を行うとともに、その実現に向け、特に生産戦略である新技術・新品种の導入について、産地をサポートしていきます。

表 ナシでの新戦略案

人材戦略	・新法人の設立と園地集積 ・雇用労働力の活用
流通・販売戦略	・流通業者との連携による新販路確立 ・滞在・消費型観光果樹園化
生産戦略	・新品种導入による高品質化、収穫期分散 ・新技術（ナシ樹体ジョイント栽培）の導入
事業活用	・果樹経営支援対策事業（改植） ・果樹未収益期間支援事業



第1回もりやまフルーツランド協議会